

石綿繊維の迅速な確認に係る取組

現状の課題

- ・石綿の気中濃度測定では、フィルターでの捕集及びそれに続く分析が必要であり、時間を要する。
- ・建築物解体の作業等では短期間での作業実施が多く、分析完了時までに対策を講じられない懸念あり。
(特に災害の復旧、復興工事において)

フィルター捕集と併せ迅速な確認を行う手法について、検討、測定を実施

○ 既存の繊維状粒子自動測定機(いわゆるリアルタイムモニター)等の機器による測定とデータの集積

- ・リアルタイムモニターの特性等の詳細を把握するとともにデータを集積
- ・デジタル粉じん計によるデータも併せて測定
- ・被災地の建築物解体現場、がれき集積場を中心に測定予定

○ 石綿のみを選択的に、かつ迅速に分析できる手法の技術開発

- ・既存のリアルタイムモニターでは、石綿繊維以外の繊維状物質も捕捉
- ・既存のデジタル粉じん計は、粒子状物質のみを捕捉
- 石綿繊維のみを選択的に、かつ迅速に分析できる技術開発の必要性
- ・厚生労働科学研究費補助金で実施
「がれきの処理作業など短期間作業にも対応可能なアスベストの簡易測定方法の開発」
 - －平成24年度は、石綿以外の無機質及び有機質の繊維を除去するための方法を検討するとともに、実験を開始
 - －併せて、選択的な検出を光学的な側面から検討

建築物解体現場、がれき処理現場等で、より迅速かつ適確な対応を図る

